

社会福祉施設における ノロウイルス集団感染防止対策の手引き

正しい手洗い	1ページ
消毒薬の調製	3ページ
おう吐物の処理	5ページ
汚れたリネン類の消毒	7ページ
入浴の注意点	8ページ
日常的な管理	8ページ

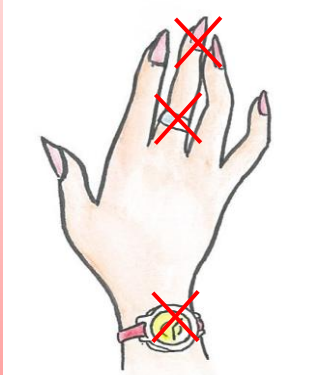
平成27年10月
(令和4年12月一部改正)
岐阜県健康福祉部感染症対策推進課

正しい手洗い

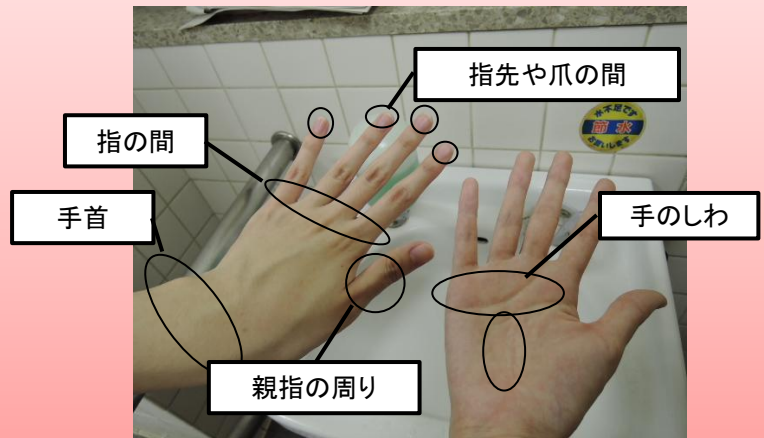
ノロウイルス感染予防の基本は「手洗い」です。多くの場合、ウイルスに触れた人の手を介して感染が拡大します。利用者・職員ともに「正しい手洗い」を習慣づけることが大切です。

手洗い前のチェックポイント

- ✓ 爪は短く切っていますか？
- ✓ 時計や指輪をはずしていますか？



汚れが残しやすいところ



社会福祉施設における手洗いのタイミング

- トイレの後
- 食品を取り扱う前
- 食事の前
- おむつ替えの後
- 吐物処理した後

下痢、嘔吐等の患者が発生したときは、次のタイミングでも手洗い

- 患者に触れた後
- 患者周辺の環境や物品に触れた後

手洗い場の環境その1 石けん

固形石けんは石けんの周りにウイルスや細菌が付着していることがあります。液体石けんを使用したほうがよいでしょう。

容器を再利用する場合には、洗浄、消毒、乾燥した後に、石けんを入れてください。（継ぎ足しは避けてください）



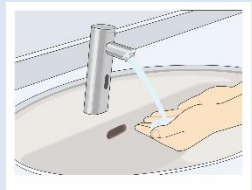
手洗い場の環境その2 水栓

蛇口は手洗い前の手で触るので、ウイルスや細菌が付着しています。自動水栓の設置をお勧めします。



＜蛇口式水栓の場合には＞

手と一緒に蛇口を洗い、ペーパータオルを使って蛇口を締めることで、手の再感染を防ぐことができます。



手洗い場の環境その3 タオル

手洗い後手ふき用タオルを共用することは、厳禁です。ペーパータオルを設置するか、個人用タオルを利用してください。



手洗いの手順



① 流水で手を洗う



② 石けんを手取る



③ よく泡立てる



④ 手のひら、指の腹面を洗う



⑤ 手の甲、指の背を洗う



⑥ 指の間（側面）、股（付け根）を洗う



⑦ 親指と親指の付け根のふくらんだ部分を洗う



⑧ 指先、爪の間を洗う



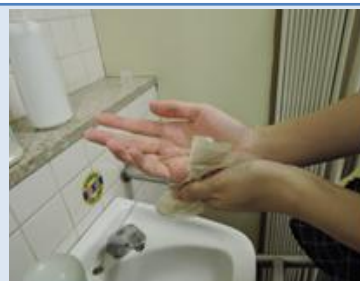
⑨ 手首を洗う（内側・側面・外側）



2度洗い(②～⑩の繰り返し)が効果的です



⑩ 石けんを十分な流水でよく洗い流す



⑪ 手をふき、乾かす



⑫ 手指消毒用アルコールを手取る



⑬ アルコールが乾くまですりこむ

アルコール消毒は、ノロウイルスにあまり効果がありませんが、細菌対策を含めた基本的な手洗い方法として記載しています。

消毒薬（次亜塩素酸ナトリウム）の調整

ノロウイルスに対して有効な消毒薬は「次亜塩素酸ナトリウム」です。消毒の目的に合わせて、原液を水で適切な濃度に薄めて使用しましょう。

使用できる場所

手指	環境	排泄物	器具 等	
			金属	非金属
×	○	○	△	○

皮膚への刺激が強いため、手指には使用できない。

金属には腐食性があるため、使用した場合にはしっかりと水で洗い流すからき取る。

塩素系漂白剤 商品（例）

※次亜塩素酸ナトリウムは、塩素系漂白剤として販売されています。

濃度	商品（例 50音順）
1%	ピュリファン、ミルクボン、ミルトン
5～6%	ジアノック、ハイター、ブリーチ
6%	アサヒラック、次亜塩6%「ヨシダ」、テキサント、ピューラックス
10%	アサヒラック、アルボースキレーネ、ハイポライト10、ピューラックスー10
12%	アサヒラック、ジアエース、バイヤラックス

使用濃度

原液を、商品の濃度、目的に応じ、水道水で薄めて使用します。

日常の清掃、リネン類の消毒には・・・

0.02%
(200ppm)

おう吐物や排泄物で汚染された場所には・・・

0.1%
(1,000ppm)

【取り扱い上の注意】

商品に記載してある使用方法をよく確認して使用するほか、特に次のことに注意してください。

- 皮膚に対する刺激が強いため、手洗いなど人に対しては使用しない。
- 消毒液が直接皮膚に触れないように手袋を使用する。
- 消毒液が皮膚や衣服についた場合は、直ちに水で洗い流す。
- 子どもの手の届かないところに保管するなど、誤って目に入れたり、飲まないように管理する。
- 使用するときは、換気を十分に行う。
- 酸性の強い洗剤と混ぜると有毒ガス（塩素ガス）が発生することがあるので注意する。
- 腐食作用や漂白作用（変色する）に注意する。
- 薄めた消毒液は時間が経つにつれて効果がなくなるので 作り置きをしない。
- 原液の有効期限を守り、直射日光の当たるところや、高温の場所には置かない。

用意する物

- 家庭用塩素系漂白剤
- ペットボトル
- 計量カップ（10m l 単位 金属製でないもの）
- じょうご（金属製でないもの）
- 手袋



ペットボトルのキャップ1杯  = 約5m l

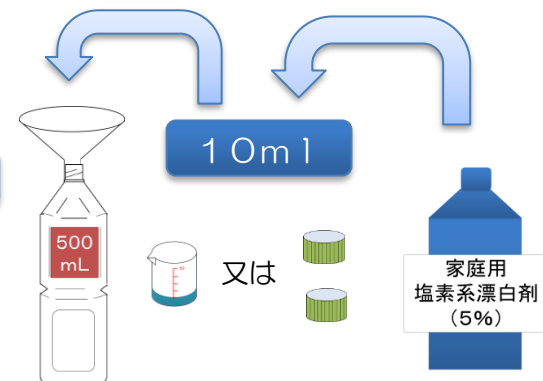


原液に直接触れないように、「じょうご」と「手袋」の使用をお勧めします

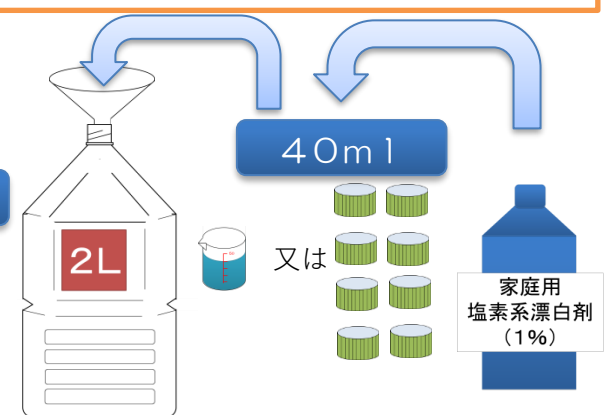
計算式

$$\frac{\text{水の量 (m l)} \times \text{作りたい消毒液の濃度 (\%)}}{\text{原液の次亜塩素酸ナトリウムの濃度 (\%)}} = \text{原液の量 (m l)}$$

例 原液 5 % の次亜塩素酸ナトリウムから 0. 1 % の消毒液を 5 0 0 m l 作る。

$$\frac{500\text{m l} \times 0. 1\%}{5\%} = 10\text{m l}$$


例 原液 1 % の次亜塩素酸ナトリウムから 0. 0 2 % の消毒液を 2, 0 0 0 m l 作る。

$$\frac{2, 000\text{m l} \times 0. 02\%}{1\%} = 40\text{m l}$$


【1,500mlペットボトル利用の場合】

原液濃度	水	原液の量	
		0. 0 2 % を作る場合	0. 1 % を作る場合
1 %	1,500m l	30m l	1 5 0 m l
5 %	1,500m l	6m l	30m l
6 %	1,500m l	5m l	25m l
1 0 %	1,500m l	3m l	1 5 m l

おう吐物の処理

ノロウイルスに感染した人の排泄物やおう吐物には、多量のノロウイルスが含まれています。処理をする人自身への感染と、施設内への汚染拡大を防ぐため、適切な方法で、迅速、確実に行うことが重要になります。

おう吐物処理キットの用意 すぐに使えるように、必要物品をセットしておく。

- ・O. 1%次亜塩素酸ナトリウム（作り方4ページ）
※処理時に作ること。作り置き厳禁
- ・使い捨て手袋（2枚）
- ・マスク、ガウン又はエプロン、シューズカバー
- ・ペーパータオル等（新聞紙、大きい布等も可）
- ・ごみ袋（2枚）とバケツ等容器
※バケツ等容器に2枚重ねて用意しておく使いやすい
- ・へらなど
※おう吐物を取り切れないときに使用
- ・水ぶき用のバケツ、ぞうきん



手順



■処理の前に、近くにいる人達を他の部屋に移動させてください。
■消毒液の調製は4ページを御覧ください。



① 手袋（2枚重ね）、ガウン（又はエプロン）、マスク、シューズカバーを着用する



② 部屋の換気をする。（ノロウイルスや塩素ガスを吸い込まないようにするため）



③ おう吐物をペーパータオル等で覆う



③' ③の後、消毒液（O. 1%次亜塩素酸Na）をペーパータオル等の上からかけてもよい



広めに
おう吐物を
覆うこと！



④ ペーパータオル等を外側から内側に向けて、ふき取り面を折り込みながら静かにふき取る



⑤ ペーパータオル等を一次回収袋（二重にした内側のごみ袋）に入れる



■手や膝を床面に付けないように注意してください。
■おう吐物を取りきれない場合は、へらなどで完全に取りきりましょう。



⑥ 手袋（二重にした外側）を一次回収袋に入れる



⑦ 一次回収袋の中に、消毒液（0.1%次亜塩素酸Na）を入れる



⑧ 一次回収袋の口をしっかりと縛る



⑨ ペーパータオル等をおう吐物のあった周囲にかぶせ、消毒液（0.1%次亜塩素酸Na）を浸す



⑩ 10分以上覆ったままにする

消毒の範囲は
できる限り広く！



⑪ ペーパータオル等を回収する



⑫ 回収したペーパータオル等を二次回収袋（二重にした外側のゴミ袋）に入れ、消毒した床を水ぶきする



※シューズカバーを用いなかった場合

付着した汚物をふき取り、消毒液（0.1%次亜塩素酸Na）を浸したペーパータオル等を踏み、靴底を消毒する



■エプロン等の表面は触れないこと。
■二次回収袋の外側を汚染しないこと。



⑬ エプロン、手袋、マスク、シューズカバーを外し、二次回収袋に入れ、袋の口を縛る



⑭ 手洗いの手順（2ページ参照）に沿って、手洗いをを行う

汚れたリネン類の消毒

汚物がついた寝間着やシーツ等のリネン類を取り扱うときは、取り扱った人の手にウイルスが付着し感染を拡大させてしまう可能性があり、二次感染を防ぐための適切な処理が必要です。

手順



① 手袋、エプロン、マスクを着用する



② リネン類に付着した汚物をペーパータオルでできる限りふき取る（汚物は放置せず直ちに処理すること。）



③ 使用したペーパータオル、手袋等を回収袋に入れ、口をしっかりと縛る

汚物が大量の場合等はp5④～p6⑦の作業を行いましょう



次の3つ消毒方法を紹介します。

腐食作用や漂白作用に留意し、消毒するリネン類の性質等に応じて選択してください。



④-1
0.02%次亜塩素酸Na液に30～60分間浸す



④-2
1分以上、85℃以上の熱湯に浸す



④-3
スチームアイロンを「高」にして濡れタオルの上から2分あてる



⑤ ④で消毒したリネン類は、他のものと分けて最後に洗濯する



⑥日光に当てて十分に乾燥させる。（布団乾燥機を使用する場合には、使用後、窓を開けて換気を十分に行う）

カーペット等広い範囲の消毒例

- ①汚染されたカーペットを、ペットシーツで十分に覆う（吸水面が上になるようにする）
- ②沸騰した直後のお湯をかける（やけどに気を付け、お湯が溢れすぎないように注意する）
- ③レジャーシートで覆う
- ④さらに、タオルで覆う
- ⑤1分間待つ

入浴の注意点

施設内で下痢やおう吐をした利用者がある場合には、ノロウイルスを含めた感染性胃腸炎が疑われます。

症状がある人は最後に浴槽に入れるかシャワーのみにするようにしましょう。



日常的な管理

ノロウイルスはどこに付着しているかわかりません。知らず知らずのうちにノロウイルスに汚染された箇所を触り、感染してしまう場合があります。

施設内で人が直接手を触れる場所や物は定期的に消毒しましょう。また、清掃に使用したぞうきん、モップなども忘れずに消毒しましょう。

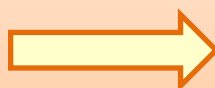
消毒の必要な場所・物

床、階段や廊下の手すり、ドアノブ、水道の蛇口、机（裏側も含む）、イス（裏側・背もたれも含む）、スリッパ、引き出しの取手、車いすの押し手・タイヤ、ベッド周囲、おもちゃ、食缶車など

定期的な清掃

日にちや曜日を決めて行いましょう。

0.02%次亜塩素酸Na
に浸した布で拭く。



水ぶきする

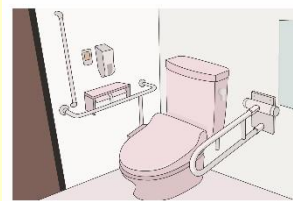
10分後

※同じところを二度拭きしない。同方向に拭くようにする。

トイレは汚染されやすい場所なので、消毒の頻度を増やす必要があります。

下痢性の用便後は、広範囲にわたって便が飛び散っています。

床面や壁面などにも便が飛び散っている場合があるので、広範囲な消毒を行いましょう。



問い合わせ先

〒501-0085

岐阜市藪田南2-1-1

岐阜県健康福祉部感染症対策推進課

TEL 058-272-1111(内線3352)

厚生労働省「高齢者介護施設における感染対策マニュアル」などを参考に、施設独自のマニュアルを作成し、職員一体となった対策をお願いします。

